



## 平成30年度第1回北海道総合開発委員会における意見 に対する道の対応状況




北海道総合政策部政策局計画推進課




## I 北海道総合計画の推進に係る御意見

### 1 生活・安心分野

#### (2) 安心で質の高い医療・福祉サービスの強化

御意見
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 健康保持に関して、大きな問題は医師不足と偏在。各大学の医学部の定員が大幅に増加しているが、一人前になるまでには時間がかかり、増加が実感されるまでにはまだ至っていない。 医師も一般労働者として、これまでのような働き方ができなくなれば、病院の夜間診療が全くできない。医師には応召義務があり、矛盾をどう解決していくか、早急に決めなければならなくなっている。</li><li>○ 福祉では、なんと言っても人材不足で困っている。介護の仕事は大変だが、素晴らしい仕事であり、みんなで介護の人材を、きちんと担っていきけるような状況をつくっていただきたい。</li><li>○ 私の町では病院と老健施設だけで約200人のスタッフが必要だが、地元には医療職や介護職の人材がいない。ベッド数がありながら、そのベッド数を有効に使えていない。</li></ul>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域医療を担う医師確保のため、一定期間地域の公的医療機関等に勤務することを条件に、医育大学学生を対象として修学資金を貸与。</li><li>● 医師不足地域に対して安定的に医師を派遣するため、医育大学と連携の上、地域医療支援センターから常勤医師を派遣。</li><li>● 地域医療を担う人材の育成のため、小・中学生を対象とした体験学習等を実施。</li><li>● 専攻医にとって魅力ある職場となり、キャリア形成が図られる環境をつくるため、地域全体で医療を支える機運を醸成するとともに、指導医の派遣など地域における研修体制を構築。</li><li>● 総合診療専門医取得後の若手医師を指導医として養成し、今後の道内勤務につなげる医療機関の取組に対し補助するとともに、総合診療医を目指す人材の確保・要請を支援。</li><li>● 地域及び診療科の医師不足・偏在を解消するため、暫定的に増員された医育大学の入学定員の維持を図ることを国へ要望。</li><li>● 医療機関自らが医療従事者の勤務環境の改善を進められるよう、医療勤務環境改善支援センターを設置し、総合的・専門的な支援を実施。</li><li>● 介護分野への参入促進のインセンティブと同時に良質な介護サービスの提供が可能となるよう、介護職員初任者研修受講料の一部を助成。</li><li>● 介護人材を安定的に確保するため、障がい者を対象とした介護職員初任者研修を実施するとともに、資格取得後の就労及び就労生活の安定が図られるよう、障害者就業・生活支援センター等と連携し、多様な人材の参入を促進。</li><li>● 介護分野での就業を希望する潜在的有資格者等を介護保険施設等へ紹介予定派遣し、実際の就業を通じて職場を見極める機会を提供し、派遣期間終了後の直接雇用を図る。</li><li>● 介護職員の離職防止のため、介護事業所内に保育所を設置した場合の運営費を補助。</li></ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"><li>◎ 地域の医療提供体制を確保するため、引き続き、地域枠医師の養成や地域医療支援センターからの常勤医師派遣などを含む様々な施策により、医師確保対策を推進するとともに、国に対し、様々な機会を通じて制度の改善について要請。</li><li>◎ 専攻医等の若手医師にとって魅力ある職場となり、キャリア形成を図りながら地域においても勤務ができるよう、医療機関と住民等の連携により地域の医療機関を支える取組を展開。</li><li>◎ 就業者の増加に向けて、潜在介護福祉士等の掘り起こしや高校や大学への働きかけを強化し、若年層の取り込みを継続して実施。</li></ul>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<b>(P48)優先課題ごとの対応方向</b> 優先課題 I あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成 i 医療・保健・福祉の充実 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりや質の高い医療・福祉サービスの提供、生涯を通じた健康づくりや疾病の予防に向けた取組を進めます。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>

<b>御意見</b>
○ たばこは、受動喫煙が問題。オリンピックでは受動喫煙防止が必須になっており、受動喫煙防止条例を早期に制定しなければならない。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道健康増進計画及びがん対策推進計画に基づき「空気もおいしい施設登録事業」、「たばこを辞めたい人への相談窓口」の設置など、受動喫煙防止対策を総合的に推進。</li> <li>● 平成30年7月に公布された改正健康増進法により、「望まない受動喫煙」を無くすため、施設の類型・場所ごとに、対策が強化されたことを受け、道内各施設で適切な対応が図られるようセミナー開催するなど普及を図る。 なお、今改正により、WHOによる規制状況のランクは1ランク上昇。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
◎ 平成30年第2定例道議会で行われた受動喫煙ゼロの実現を目指す決議の趣旨も踏まえ、道議会とともに、条例化に向けた取組等を検討。
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<b>(P9)北海道の現状・課題</b> ①生活・安心 「健康・福祉」 <ゴール3(保健)の主な内容> 非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて減少させることや、薬物やアルコールの乱用防止、たばこの規制の強化、全ての人が質の高い保険医療サービスを受けられることなどの目標が掲げられています。 (本道の現状・課題) 安心して子育てできる社会づくりや将来にわたり安心できる地域医療の確保、道民一人ひとりの生涯を通じた健康づくりの推進と疾病の予防が必要となっています。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b> 

(4) 環境の負荷が少ない持続可能な社会の構築

<b>御意見</b>
○ 国の第5次環境基本計画は、SDGsの考え方を具現化したもので、地域循環共生圏の構築を目指している。その重点戦略を支える環境政策のうち、気候変動対策に関する道の総合計画の指標である温室効果ガス排出量に関する評価が「D」であり、加速度的に取り組むべきと考える。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道地球温暖化防止活動推進員の講習会等講師としての派遣等による地球温暖化防止行動の普及啓発を実施。</li> <li>● 省エネ3Sキャンペーンによる民生家庭部門を対象とした省エネの取組の推進やエコアンドセーフティ事業の推進</li> <li>● 「フロン排出抑制法」に基づく、フロン類の大気中への排出抑制対策の推進。</li> <li>● 「地球温暖化防止対策条例」に基づく報告書制度による事業者の取組促進。</li> <li>● 再生可能エネルギーの導入促進に向けた、市町村への情報提供など。</li> <li>● 二酸化炭素削減に有効な水素の利活用を促進し、水素社会の形成を加速するため、普及啓発支援などの取組。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
◎ 国の地球温暖化対策の動向や社会情勢等を踏まえ、国や市町村など関係機関と連携しながら、引き続き、温室効果ガス排出削減等に向けた各取組を実施。
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<b>(P58)優先課題ごとの対応方向</b> 優先課題Ⅱ 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現 ii 地球環境保全の推進 低炭素型ライフスタイルへの転換など地球温暖化対策や、再生可能エネルギーの導入に向けた取組を進めます。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>     

### 御意見

- 再生可能エネルギーを持続可能な電源としていくため、新エネの量的な拡大ということを図るだけではなく、質的な向上を北海道の中でも進めていくということが必要。
- 安定的に発電できるバイオマス発電の拡大や、情報技術を使い、情報と一緒に考えたシステムとして再生可能エネルギー導入を考えると、安定的電源として見なしにいけるような再生可能エネルギーの質的向上を考えることが必要。

### 道の取組

- 新エネルギー導入加速化基金を設置し、エネルギー地産地消のモデルづくりのほか、新エネ設備の導入や地熱の掘削への支援やコーディネーター配置などにより、地域のエネルギー地産地消の取組を促進。
- 地熱資源の利活用に関するアドバイザーの派遣や、市町村の新エネルギー導入計画の具体化に向けた導入可能性調査事業、地域の特色を活かした省エネ・新エネの取組へ支援。
- 環境・エネルギー関連の技術開発や製品開発、プロジェクト等の取組に対する支援を行う。
- バイオマスに関するワンストップ窓口を活用し、市町村における地域特性に応じたバイオマス利活用の検討やバイオマス産業都市構想の策定への支援のため、バイオマス利活用エキスパート・アドバイザーの派遣などにより支援。
- 産学官で構成する「北海道バイオマスネットワーク会議」を通じて、情報共有の促進、セミナーの開催等を通じた普及啓発を促進。

### 今後の方向性

- ◎ 「新エネルギー導入加速化基金」を活用して、引き続き、地域の特性を活かしたエネルギー地産地消の取組を支援し、新エネルギー導入を加速。
- ◎ 省エネ・新エネ化の促進を図るため、北海道発の先進的なエネルギー関連技術の研究開発等への支援を実施。
- ◎ 本道に豊富に賦存するエネルギー資源を活用した「エネルギー地産地消」のほか、地域の産業とエネルギーを結びつけ、供給側と需要側が連携した地域内循環により、地域産業の活性化や暮らしの豊かさにつなげるエネルギー自給・地域循環システムの構築に向けた取組を、道内各地域に拡げて、地域における新エネルギーの導入促進を図る。
- ◎ 北海道発の先進的なエネルギー関連技術の研究開発等を支援し、省エネ・新エネ化を促進するために、事業内容の改善を検討する。
- ◎ 引き続き、市町村における地域特性に応じたバイオマス利活用の検討やバイオマス産業都市構想の策定への支援のため、バイオマス利活用エキスパート・アドバイザーの派遣などにより支援するとともに、産学官で構成する「北海道バイオマスネットワーク会議」を通じて、情報共有の促進、セミナーの開催等を通じた普及啓発を促進。
- ◎ バイオマス産業都市地域におけるバイオマス利活用の取組を促進するため、国の食料産業・6次産業化交付金を活用し、道内市町村を支援。

### SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所

#### (P58)優先課題ごとの対応方向




優先課題Ⅱ 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現

ii 地球環境保全の推進


低炭素型ライフスタイルへの転換など地球温暖化対策や、再生可能エネルギーの導入に向けた取組を進めます。

#### 関連の深いSDGsのゴール



<b>御意見</b>
○ 道の災害廃棄物処理計画では、市町村を対象に災害廃棄物処理体制の整備について理解を促すとなっているが、具体的に市町村の災害廃棄物処理計画の策定率を2年くらいで100%にもっていくように、加速度的に進めなければ、明日起こるかもしれない災害に対応できない。
<b>道の取組</b>
● 市町村が参集する各種会議において、災害処理廃棄物計画策定のポイント等を説明。
<b>今後の方向性</b>
◎ 道では北海道災害廃棄物処理計画を平成29年度末に策定したところであり、今後、市町村での計画策定を促す。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>
  


(5) 道民生活の安全の確保と安心の向上




<b>御意見</b>
○ オリンピックのフードビジョンが設定され、持続可能な食べ方というのは何かということが国から指示されている。これに対して、消費者の教育の項目が是非入ってほしい。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道食育推進計画【第3次】に基づき、北海道らしい食育の普及や道民運動としての食育の推進を図るとともに、食育をめぐる情勢の変化や食育推進に係る課題等を踏まえ、北海道食育推進計画【第4次】の策定を推進。</li> <li>● 喫緊の課題である食べ残し等の食品ロス対策については、引き続き庁内関係部と連携した食品ロス対策部会を開催し、取組を推進。</li> <li>● 食品ロス対策を含む3Rの普及啓発を推進。</li> <li>● 啓発パネルの展示(道立消費生活センター展示コーナー)や、啓発・パネル・DVDの貸し出しを実施し、道民への普及啓発を実施。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 新たな北海道食育推進計画【第4次】に基づき、地域との連携を促進し、効果的な食育の取組を推進。</li> <li>◎ 3Rハンドブックの配付や新聞での広報等、食品ロス対策を含む3Rの普及啓発の取組を推進</li> <li>◎ 引き続き、庁内関係部で連携した食品ロス対策部会で、一体となった取組を推進</li> </ul>
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<p>(P60)優先課題ごとの対応方向          優先課題Ⅱ 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現          iii 持続可能な生産と消費の推進          3Rの一層の推進など循環型社会の形成に向けた取組や食品ロスの削減に向けた取組などを進めます。</p>
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>






## 2 経済・産業分野



### (1) 農林水産業の持続的な成長



御意見
○ 北海道産牛肉についても、この先どういった差別化ができるのか見えにくいので、もし、食業界でSDGsを実現しようと思うと、大胆な策がもっと必要。
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際情勢の変化に対応し得る北海道の酪農畜産を構築するため、草地の植生改善、工房チーズの品質向上、豚肉の販売力強化などの取組を推進。</li> <li>● 初期投資を抑制した円滑な経営継承やゆとりある経営の展開が期待できる放牧酪農を推進するため、北海道に適した放牧酪農モデルの普及を図る。</li> <li>● 安定した北海道産牛肉の生産を推進するため、北海道産牛肉の消費流通対策を実施し、安定した販売価格と供給先の確保を図る。</li> </ul>
今後の方向性
◎ 国際情勢の変化に対応しうる酪農畜産の構築を図るため、牧草の生産から営農支援対策の強化、チーズや豚肉の競争力強化に至るまでの取組を引き続き推進。
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P61)優先課題ごとの対応方向</b>          優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長          i 持続可能な農林水産業の推進          農業においては、スマート農業の普及をはじめとした技術の開発・普及や生産基盤の整備、付加価値の高い農業の推進、農業・農村の持つ多面的機能の発揮促進に取り組みます。</p>
<p><b>関連の深いSDGsのゴール</b></p> 

御意見
○ 農と食という部分と観光を何かで繋いで、一つのキーワードを作っていたきたい。
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農を核とした多様な分野の事業者による地域構想づくりの支援、都市住民への効果的な情報発信などにより、食・滞在・体験等を地域ぐるみで受け入れる新たなグリーン・ツーリズムとして「農村ツーリズム」を推進。</li> <li>● 農業・農村に対する道民理解を促進するための北海道農業・農村の情報誌を発行し、青年層をターゲットにした情報発信を実施。</li> <li>● 農村ツーリズムに携わる将来の人材を確保していくため、地域内のネットワークが構築された農村ツーリズムの先進地のノウハウを活用し、新たに多様な滞在コンテンツの提供や運営を担う若者等の育成を支援。</li> </ul>
今後の方向性
◎ 農林漁業者のみならず、宿泊業者や飲食業者など地域の多様な主体が、「食・滞在・体験」等を地域ぐるみで受け入れる『農村ツーリズム』を推進。
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P61)優先課題ごとの対応方向</b>          優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長          i 持続可能な農林水産業の推進          農業においては、スマート農業の普及をはじめとした技術の開発・普及や生産基盤の整備、付加価値の高い農業の推進、農業・農村の持つ多面的機能の発揮促進に取り組みます。</p>
<p><b>関連の深いSDGsのゴール</b></p>   

(6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進

御意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展のためには、引き続き観光分野に力を入れて、インバウンドの更なる加速化、それに伴う経済波及効果の増大が必要。そのためには、日本版DMOの形成や、滞在型・広域周遊型で、かつ、季節による偏りのない観光商品の開発が重要。</li> <li>○ 観光振興、それと環境・自然との共生、こういったものが今後の大きな課題・テーマということになっていくのではないか。</li> </ul>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の事業者や観光協会等が連携して取り組む、自然、歴史、文化など地域の特性を活用した観光資源の掘り起こし、磨き上げによる多様な観光商品づくりや広域的な観光地づくりに対して支援。</li> <li>● 広域観光周遊ルートを形成する道北・道東エリアにおける観光客の増大などにつなげるため、外国人観光客向けの滞在モデルやサービスの企画・検討等の取組を実施。</li> <li>● 観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役としての役割を果たす「日本版DMO」の道内における形成を促進するため、道内各地におけるDMOの確立に向けた取組を支援するとともに、広域連携DMOの登録を受けた観光振興機構のマーケティング力を強化。</li> <li>● 「北海道インバウンド加速化プロジェクト」に沿って、アジアや欧米の市場別の戦略的な観光プロモーションを展開。</li> <li>● 安定的な外国人観光客数の増加を図るため、新たに欧米市場をターゲットとして、戦略的なプロモーション等を実施。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 観光客の消費を地域経済の活性化に繋げるためには、地域の積極的な取組が必要であり、その取組に対する支援ニーズは、毎年度、採択件数を超える支援申請がある状況であり、今後も地域の取組に対して支援。</li> <li>◎ 急増する外国人観光客のさらなる誘客促進のため、既に来道者が多い成熟市場、旅行市場の拡大が期待されるアジアなどの成長市場、潜在的な市場として有望視される欧米市場など、対象国・地域の市場ニーズに応じた戦略的な誘客を推進。</li> <li>◎ 観光消費の拡大による地域経済の活性化を図っていくためには、地域の主体的な取り組みが必要であるため、引き続き、自然、歴史、文化などを活用した地域の観光地づくりの取り組みに対する支援を行っていく。</li> <li>◎ 来年度も引き続き、「北海道インバウンド加速化プロジェクト」に沿って、成長市場・成熟市場・欧米市場など、各市場別に戦略的な観光プロモーションを展開し、安定的な外国人観光客数の増加を図る。</li> </ul>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P67)優先課題ごとの対応方向</b>            優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長            iv 海外成長力の取り込みや多彩な地域資源の活用による持続的な経済の発展            アジアなど海外への道産食品の輸出拡大や海外展開によるビジネス創出、食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型観光地づくりに向けた取組などを進めます。</p>
関連の深いSDGsのゴール
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #d9534f; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>8 働きがいも 経済成長も</p>  </div> <div style="background-color: #d9534f; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  </div> </div>

<b>御意見</b>
○ アドベンチャーツーリズムの振興など観光を進めるにあたって、鳥を観察できる季節や近隣の景観などのデータベース化や、ルールづくりだとか、そういったところまで踏み込むべき。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧米諸国の北海道認知度は低い現状があり、欧米からの訪日理由としては、ゴールデンルートを 旅行する一般層と、日本特有の生態系や野生生物、自然体験などに興味を持つアドベンチャートラベル層に分けられる。</li> <li>● 北海道には四季折々の雄大な自然があり、グローバルレベルの資源を持つが、情報発信が不足している。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
◎ 欧米主要国(米国、英国、独国)をターゲットにし、アドベンチャートラベル等情報発信サイトの構築や、雑誌、テレビ等のメディア招へい、発信、専門Travel Expo等出展・セミナー等の開催等に取り組む。
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<b>(P67)優先課題ごとの対応方向</b> 優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長 iv 海外成長力の取り込みや多彩な地域資源の活用による持続的な経済の発展 アジアなど海外への道産食品の輸出拡大や海外展開によるビジネス創出、食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型観光地づくりに向けた取組などを進めます。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>  

<b>御意見</b>
○ 文化についての興味は、今後、アイヌとか縄文が、海外からの観光客にさらに注目されて来るのではないかと。それを情報提供して、来道につなげるには、展示型の観光ではなく、体験型の観光を準備するというのが非常に重要であり、さらに、言語の通訳をしながら、観光メニューも理解し、案内が出来ると人材の育成が必要。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の事業者や観光協会等が連携して取り組む、自然、歴史、文化など地域の特性を活用した観光資源の掘り起こし、磨き上げによる多様な観光商品づくりや広域的な観光地づくりに対して支援。</li> <li>● 受入体制整備や商品づくりなど、地域の広域的な取組を支援。</li> <li>● 北海道の観光振興を図るため、人手不足、人材の定着が課題となっている観光関連産業の人材確保を支援。</li> <li>● 2020年4月の「民族共生象徴空間」開設を控え、道内各地でアイヌ文化を活用した観光客誘致に取り組む地域のネットワーク化や広域観光周遊を促進している。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
◎ 観光消費の拡大による地域経済の活性化を図っていくためには、地域の主体的な取り組みが必要であるため、引き続き、自然、歴史、文化などを活用した地域の観光地づくりの取り組みに対する支援を行っていく。 ◎ 外国人来道者数の急増に伴い、多言語に対応できる人材の育成や、案内機能の充実などが課題となっており、観光ガイドの育成も含めた受入体制整備に取り組んでいく。
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<b>(P67)優先課題ごとの対応方向</b> 優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長 iv 海外成長力の取り込みや多彩な地域資源の活用による持続的な経済の発展 アジアなど海外への道産食品の輸出拡大や海外展開によるビジネス創出、食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型観光地づくりに向けた取組などを進めます。
<b>関連の深いSDGsのゴール</b>  




(7) 良質で安定的な雇用の場づくりと産業人材の育成・確保


御意見
<p>○ 昔は地元で産業、企業があり、働く所があったので、戻ってきて仕事ができましたが、今は産業が縮小して、戻ってくる人がいなくなっている。そのため地元から人が出ていく一方で、東京に行ってしまう。抜本的な対策を考えなければ、人づくりも地域づくりも非常に難しい。</p>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本道の戦略産業である食・ものづくり分野への就職を目指し、地域で合同企業説明会やインターンシップ事業を行うとともに、地域の企業の人材確保に向け、地域の企業情報や生活情報の発信や札幌市において企業説明会を開催。</li> <li>● 中高年求職者を対象に地域産業理解・意識改善セミナー、企業見学会などを実施。</li> <li>● 雇用創出の取組や産業育成のノウハウを有する人材を配置し、関係機関との調整を通じて全道的な戦略産業雇用創造プロジェクトの効果的かつ円滑な事業展開を促進。</li> <li>● 産業振興条例に基づく助成により企業立地を促進。</li> <li>● 首都圏等との自然災害等による同時被災リスクの低さなど本道の優位性を活かした本社機能や研修機能、生産拠点、オフィスなどの誘致活動を展開。</li> <li>● 豊富で良質な食資源を活かした食関連分野の企業誘致活動を推進。</li> <li>● 地域の特徴ある資源を活かして地域への企業立地を促進。</li> <li>● 冷涼な気候などを活かし、環境配慮型データセンターの誘致活動を展開。</li> <li>● 道内の医療関係研究シーズを活かした健康・医療関連分野の企業誘致活動を展開。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 雇用創出数の着実な達成のため、プロジェクト事業の早期実施と効果的な事業展開のほか、雇用創出の把握に努めるほか、プロジェクトに参画する事業者の拡大に努力。</li> <li>◎ 地域の特色ある資源を活用し、データセンターの誘致活動を展開</li> <li>◎ 地域における良質な就労場の確保につながる、3大都市圏企業の本社機能の移転やオフィス系事業所の立地促進</li> <li>◎ 道外における展示会やフォーラムの開催等による企業誘致の推進</li> <li>◎ 現場見学会等を通じた人材確保の促進</li> <li>◎ 産業振興条例に基づく助成制度を積極的に活用し、更なる企業立地を促進。</li> </ul>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P52-53) 優先課題ごとの対応方向</b>            優先課題Ⅰ あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成            iv 災害に強い地域づくりとバックアップ機能の発揮            首都圏などとの同時被災リスクの低さなど地理的優位性を活かし、企業の本社機能や生産拠点、データセンター等の立地に向けた取組、災害時における食料やエネルギーの備蓄・供給など、バックアップ機能の発揮に向けた取組を進めます。</p> <p><b>(P64) 優先課題ごとの対応方向</b>            優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長            ii 地域産業の創造やイノベーションの創出            本道の優位性を活かした食関連産業や高い付加価値を生み出すものづくり産業、環境・エネルギー産業等の新たな成長産業の創造に向けた取組を進めるとともに、こうした取組を促進し、新たな価値を生み出す研究機関などの取組を進めます。</p> <p><b>(P66) 優先課題ごとの対応方向</b>            優先課題Ⅲ 北海道の価値を活かした持続可能な経済成長            iii 中小・小規模企業の振興            地域の経済・雇用を支える中小・小規模企業の振興や道民の暮らしを支える地域商業の活性化に向けた取組を進めます。</p>
関連の深いSDGsのゴール
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>

御意見
<p>○ 北海道の離職率は高い。一時期、採用抑制をしていたので、最近は入ってすぐに即戦力みたいな感じになる。若い人がそこで中々上手いかわなくて、辞めていくといった現象がある。 総労働時間も長い。人手不足なので、労働時間を短くしようとしても現実論としては中々上手いかわない。北海道は、労働局の調査によると、36協定の届け出件数が少ない。届け出る意識がなく残業しているのではないかと推測。 こうしたことの分析を深め解決していかないと、若い人の人づくりや職場の定着が進んでいかない。</p>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働関係法令の普及啓発などをテーマとする「労働問題セミナー」を開催し、企業における労働福祉の向上を図る。</li> <li>● 企業の就業環境の改善などに係る包括的な支援をワンストップで行う拠点として、「ほっかいどう働き方改革支援センター」を設置し、企業からの相談に対応するとともに、業界団体と連携して働き方改革プランを作成するなど、企業の働き方改革の取組を促進する。</li> <li>● 中小企業等の就業環境改善を促進するため、働き方改革に取り組む企業の認定や地域企業へのハンズオン支援、優良事例の普及を行う。</li> <li>● 非正規雇用労働者の正社員化、処遇改善に向けた実態調査を行うとともに、改善方策を取りまとめ、普及啓発を図る。</li> <li>● 若者の早期離職防止に向け、「若者早期離職防止総合対策プログラム」を策定し、労働、教育、産業政策が連携し、在学時、就活時、就職後などといった各ステージにおける支援を実施。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 長時間労働の是正をはじめとするさまざまな企業や業種における働き方改革の取組事例を数多く収集し、発信するとともに、働き方改革に取り組む企業の認定制度を創設するなどして、働き方改革の取組を推進。</li> <li>◎ ジョブカフェにおける就職カウンセリングや教育機関と連携した就職ガイダンス、企業における定着促進の取組の実施など、引き続き、プログラムに基づく取組を推進。</li> </ul>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p>(P54)優先課題ごとの対応方向 優先課題Ⅰ あらゆる人が将来の安全・安心を実感できる社会の形成 v 安心して働ける環境づくりの推進 良質で安定的な雇用の受け皿づくりや多様な働き手の就業支援、就業環境の整備・改善に向けた取組を進めます。</p>
<p>関連の深いSDGsのゴール</p> 
御意見
<p>○ 外国人の方は、北海道の技術を学びに来るという形での基本的な体制づくりを、しっかりすることが必要。</p>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外国人留学生の道内就職を促進するため、ジョブカフェにおいて就活セミナーやキャリアカウンセリングを実施。</li> <li>● 外国人材の受入促進については、平成31年度の国に対する要望において、「外国人材の活躍に向けた制度の整備と支援の充実」を要望しており、厚労省では、外国人材受入の環境整備等として100億円を概算要求。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ジョブカフェ(ジョブサロン、マザーズ・キャリアカフェ含む)の機能について、新規学卒者の就職状況や少子化の状況を踏まえ、女性・中高年齢者・外国人留学生の支援を拡充することを検討。</li> <li>◎ 平成31年度の国費予算について、国の制度設計の動きを注視し、必要な対応を検討。</li> </ul>
<p>関連の深いSDGsのゴール</p> 



### 3 人・地域分野





#### (1) 協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築


御意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材が私の町から函館に出ていくが、函館から札幌経由で東京に行くのが今の日本の流れになっている。こういう大きなところから変えていかなければならないので、国を巻き込んだ議論が必要。</li> <li>○ 地方に行って頑張る、期待が持てるというマインドづくりを、かなり広く展開していかなければならない。地方に戻りたいから戻る、行きたい人が行ける環境と、行きたくなる雰囲気づくりが必要。</li> </ul>
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道内市町村の地方創生を支援するため、経済界等と連携して企業や人材等をマッチング。</li> <li>● 地域づくり総合交付金を地域創生に向けた取組に優先的に交付。</li> <li>● 地域活動の担い手となる人材育成やサポート、各種取組を展開し、地域住民や市町村の主体的な取組を支援。</li> <li>● 集落に住み続けるための「働く場」の確保をするため、地域の仕事の掘り起こしや情報提供、地域資源を活かしたビジネスの立ち上げを支援。</li> <li>● 集落問題の専門家による、困りごとを気軽に相談できるサロンを開催。</li> <li>● 東京における移住相談窓口「北海道ふるさと移住定住推進センター」で、観光施策等と連携し、本道の魅力をPRするとともに、特定の地域やテーマを集中的発信する「北海道ウィーク」を開催。</li> <li>● 北海道らしい「生涯活躍のまち」の推進に向けた理解促進、専門コーディネーターによる地域の実情に応じた助言、移住施策と一体となった首都圏等への戦略的PR実施。</li> <li>● 首都圏等で開催される「北海道暮らしフェア」などで体験移住「ちょっと暮らし」をPR。</li> <li>● 道内外の若者を対象に、地域への関心や愛着を高める取組を実施し、若年層とのネットワーク構築体制や移住に向けた支援体制を整備。</li> <li>● 地域おこし協力隊を担当する市町村職員向けの研修、隊員の活動や定住・定着に向けた研修会を開催。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 市町村等の取組を包括的にサポートし、北海道創生を更に加速、進化させていくとともに、地域の意見を反映した政策の展開に向けて、各振興局の地域課題解決に向けた取組や市町村などの取組を支援。</li> <li>◎ 「北海道における集落対策の方向性」に基づくこれまでの取組の普及に努め、引き続き地域が主体となった集落対策の促進を支援していくとともに、集落対策未着手市町村や対策を始めて間もない市町村に対し、専門家と連携して対策促進のため支援。</li> <li>◎ 本道への移住促進のため、情報発信や相談対応の強化に努め、東京に設置している移住相談窓口の運営にあたっては、民間のノウハウの活用や、観光分野との政策間連携などに努める。また、地域への定着を目的とした地域おこし協力隊の隊員数を増加させるため、市町村に対し、制度への理解や活用を促すとともに、隊員の定着に向けた取組が円滑に行われるよう、市町村と連携。</li> </ul>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P73)優先課題ごとの対応方向</b></p> <p>優先課題V 持続可能で個性あふれる地域づくり</p> <p>i 様々な連携で支え合う地域づくりの促進</p> <p>多様な主体の連携・協働により、地域における高齢者の生活支援や生活交通の確保など生活関連サービスの維持や行政サービスの持続的な提供に取り組むほか、本道各地域の特性や豊かな資源を活かした地域づくりに取り組みます。</p>
関連の深いSDGsのゴール
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #ff9800; color: white; padding: 5px; margin-right: 10px;">11</div> <div style="font-size: 8px; color: #ff9800; margin-right: 10px;">住み続けられるまちづくりを</div>  </div>

御意見
○ 情報インフラ整備については、ブロードバンドサービスの人口普及率は高いが、農業と観光の地域のカバー率が低く、本来、必要なのに情報インフラが無い現状がある。北海道が描くサステナブルな産業振興モデルに合致した情報インフラの整備が必要。
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くの条件不利地域を抱える本道では、採算性の問題から民間事業者による整備が進みづらく、地域間格差が生じていることから、国における情報通信審議会の答申を踏まえ、現在運用されているユニバーサルサービス制度を早期に見直し、条件不利地域における超高速ブロードバンド基盤や携帯電話基地局等の整備・維持管理を対象として追加するよう、国に要望を実施。</li> <li>● 情報通信格差是正の促進のため、不感地帯解消に向けた携帯電話事業者への働きかけ、基地局整備に対する過疎債等の償還金補助を行う。</li> </ul>
今後の方向性
◎ 情報通信基盤は、住民の暮らしや産業活動を支える社会資本であり、今年3月に策定した「ICT利活用推進計画」においても、情報通信基盤の整備を重点的に取り組む施策の一つとして位置づけている。今後も、他都府県と連携を図り、超高速ブロードバンドの整備促進に向け、助成制度の創設や補助率の引き上げ等支援策の充実、ユニバーサルサービス制度の見直しなど、国に働きかけを実施。
関連の深いSDGsのゴール
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>

## (2) 北海道の未来を拓く人材の育成


御意見
○ 社会に出た時にいろんな尺度、物差しがあるということを、教育の中により一層反映していただきたい。
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会との接続を重視し、望ましい職業観・勤労観を育成するためのキャリアガイダンスを充実</li> <li>● 社会や職業にかかわる様々な事業所におけるインターンシップの充実</li> <li>● 将来、社会にどのように参画していくのかを考えさせる学習などの体験的な学習活動の充実</li> <li>● 求職と求人とのミスマッチが生じている企業・業種への理解促進を図る就職支援の充実</li> </ul>
今後の方向性
<p>◎ 「小(中)学校教育課程編成の手引」に現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考える学習活動等の事例を取り上げるとともに、指導主事の学校教育指導訪問等による指導助言を実施するなど、引き続き、キャリア教育の充実を推進。</p> <p>◎ 各学校における個別面談や進路相談員による進路講話のほか、ビジネスマナーや労働法に関わる講義等を実施するなど、引き続き、生徒一人一人に合ったきめ細かな指導を充実。</p>
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<p><b>(P69)優先課題ごとの対応方向</b>  <b>優先課題IV 未来を担う人づくり</b>          i 子ども・青少年の確かな成長を支える環境づくり          未来を担う子ども達の学力・体力のステップアップや健やかに成長できる環境づくり、世界で活躍できる多様な人材の育成や海外の優秀な人材の活用などに取り組みます。</p>
関連の深いSDGsのゴール
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>


御意見
○ 北海道のすごさ、それを魅力に感じる感受性の高い人づくりや、人口減少していく北海道での働き甲斐をどう見だしていくかが大切。その一つの軸として、地域まで根付いた教育、人づくりが大切。
道の取組
● SDGsを重点テーマとして総合計画の推進について審議を行った8月20日の総合開発委員会において、委員・参与の皆様からいただいたご意見に対する道の対応状況と、今後の方向性について整理。整理したものに基づき、総合計画の推進に向け、計画部会においてより一層の議論が必要な事項について検討。
今後の方向性
◎ 総合計画の推進に向け、8月20日の総合開発委員会の審議を踏まえ更に議論が必要となる項目について、計画部会において審議をいただき、政策評価や来年度の政策展開の企画立案などに反映。
SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所
<b>(P69)優先課題ごとの対応方向</b> 優先課題Ⅳ 未来を担う人づくり i 子ども・青少年の確かな成長を支える環境づくり ii 地域や産業を担う人材の育成・確保 iii 女性が活躍できる社会づくり
<b>関連の深いSDGsのゴール</b> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも 経済成長も</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>16 平和と公正を すべての人に</p> </div> </div>

御意見
○ 国際社会においては、「いじめ」は子どもに対する暴力、子どもの人権に対する侵害として認識されていることを、学校及び社会全体で理解する必要がある。教育機関におけるSDGsの学習が、いじめの未然防止を含めた取組のひとつとして定着することを期待。
道の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童生徒がいじめ問題を自分のこととして捉え考え、議論する主体的な活動の推進や、SNSを活用した相談支援体制の構築など、いじめ防止への取組を充実。</li> <li>● 「児童生徒理解・教育支援シート」の活用促進など、不登校児童生徒への支援に向けた取組を充実。</li> <li>● 教職員の生徒指導・教育相談に係る資質・能力の向上と児童生徒の好ましい人間関係を基盤とした学校体制を充実。</li> <li>● いじめによる重大事態として報告のあった事案の再調査の判断及び再調査を行う場合は、適切に実施。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ いじめ等の未然防止に向けては、児童生徒が自らいじめ等の問題について学び、主体的に考えたり、コミュニケーション能力の向上を図る取組が必要であるため、自己肯定感やコミュニケーションスキルを高めるなどの指導プログラムの調査研究及び普及啓発、児童生徒自身がいじめ等の問題行動について考える機会の充実を推進。</li> <li>◎ 北海道いじめ調査委員会において、引き続き、いじめによる重大事態として報告のあった事案の再調査の必要性を審議するなどして、適切に対応。</li> </ul>
<b>関連の深いSDGsのゴール</b> <div style="text-align: center;">  <p>16 平和と公正を すべての人に</p> </div>




(4)ふるさとの歴史・文化の発信と継承

<b>御意見</b>
○ 縄文遺跡の世界遺産への登録に向け重点的に取り組んでいただきたい。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた推薦書案作成。</li> <li>● 国際的合意形成事業の実施、縄文文化に係るパネル・出土品の展示、普及啓発資材配布、縄文文化に係るセミナー・フォーラムの開催。</li> <li>● 縄文文化の持つ特徴やその意義、価値の大きさを、映像資料や冊子等により国内外に広く発信。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指し、関係県、市町と共同で、審査機関の現地調査等の対応を進めるとともに、海外プロモーション等を実施し、国際的な評価獲得を推進。</li> <li>◎ 世界遺産登録に伴う文化資源を核とした地域活性化や誘客拡大などの効果の全道への波及を目指した取組を展開。</li> </ul>
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<p><b>(P75)優先課題ごとの対応方向</b></p> <p>優先課題Ⅴ 持続可能で個性あふれる地域づくり</p> <p>ii 北海道独自の歴史・文化の継承やスポーツの振興</p> <p>アイヌ文化や北海道・北東北の縄文遺跡群など本道独自の歴史・文化の保存・伝承、情報発信のほか、世界の舞台で活躍するトップアスリートの育成、札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会など国際大会やスポーツ合宿の誘致、地域におけるスポーツ活動や環境の充実などに取り組めます。</p>
<p><b>関連の深いSDGsのゴール</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div> </div>

<b>御意見</b>
○ 教育の場や社会教育の場で、アイヌなど北海道の文化をもう一度再発見していくような取組も必要だと思う。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 象徴空間の一般公開に向けた道内外の機運醸成、国内外からの誘客促進。</li> <li>● オリンピック開会式等での文化発信に向けて、(公社)北海道アイヌ協会が行う各地域の舞踊や音楽など、統一した舞踊等の作成などの取組を支援。</li> <li>● 「イランカラプテ」キャンペーンの推進、フォーラムの開催などによるアイヌ文化の発信。</li> <li>● アイヌ民俗文化財の調査・保存・伝承活動の推進</li> <li>● 希望する学校へのアイヌ教育相談員の派遣。</li> <li>● アイヌ文化やアイヌ語由来の地名をほっかいどう学ネット検定をとおして発信。</li> <li>● 文化財の調査・保存・活用の推進</li> <li>● 世界遺産の登録と保存活用の推進、文化財に関する情報の発信と文化財に親しむ機会の提供</li> <li>● ふるさと教育・観光教育等推進事業指定校における「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用した実践的な授業の実施。</li> <li>● 北海道ふるさと教育・観光教育等実践事例交流会における本道の自然・文化等の教育資源を活用した実践の交流及び「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用した学習活動の成果の普及。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 2020年4月に開設する民族共生象徴空間の機運醸成や誘客促進を図るため、関係機関と連携し、道内外で象徴空間やアイヌ文化のPRを行うとともに、東京オリンピック・パラリンピック開会式等におけるアイヌ文化の発信に向け、パフォーマンスの検討や実施体制の整備などの準備を進める。</li> <li>◎ 民族共生象徴空間の開設に向け、道内外の機運醸成や誘客促進を図るため、国内プロモーションや道内の地域連携体制の検討、海外での道産品PRと連携したアイヌ文化の発信強化を行う。</li> <li>◎ 民俗芸能の保存・活用について、これまで子どもたちを対象として伝承講座を行い、ブロック単位での成果発表会や全道大会を開催してきたが、引き続き、課題となっている後継者の育成や発表機会の確保などについて対応を検討。</li> </ul>
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<p><b>(P75)優先課題ごとの対応方向</b></p> <p>優先課題Ⅴ 持続可能で個性あふれる地域づくり</p> <p>ii 北海道独自の歴史・文化の継承やスポーツの振興</p> <p>アイヌ文化や北海道・北東北の縄文遺跡群など本道独自の歴史・文化の保存・伝承、情報発信のほか、世界の舞台で活躍するトップアスリートの育成、札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会など国際大会やスポーツ合宿の誘致、地域におけるスポーツ活動や環境の充実などに取り組めます。</p>
<p><b>関連の深いSDGsのゴール</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div>

(5)世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現

<b>御意見</b>
○ 専門家による指導が受けられない一般的なレベルにある若い女性アスリートの栄養障害などの問題に対し、早く手を打ち、改善を図らなければならない。
<b>道の取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道タレントアスリート発掘育成事業において、通常の栄養講習に加えて、女性アスリート及び指導者を対象に女性アスリート特有の障害に関する講習を定期的実施。また面談も行い、月経について聞き取り、問題があると判断した選手は保護者含め婦人科診断を指導。</li> <li>● スポーツ王国北海道事業のペアレンツスクールにおいて、小学生の子をもつ保護者を対象に講習会を開催し、食事や栄養をテーマにした講義を適宜実施。</li> </ul>
<b>今後の方向性</b>
◎ 引き続き、講習、面談、指導等を定期的実施し、栄養障害等のリスクに関する理解が進むよう、取組を推進する。
<b>SDGs推進ビジョン(原案)関連箇所</b>
<p><b>(P69)優先課題ごとの対応方向</b>          優先課題Ⅳ 未来を担う人づくり          i こども・青少年の確かな成長を支える環境づくり          未来を担う子ども達の学力・体力のステップアップや健やかに成長できる環境づくり、世界で活躍できる多様な人材の育成や海外の優秀な人材の活用などに取り組みます。</p> <p><b>(P75)優先課題ごとの対応方向</b>          優先課題Ⅴ 持続可能で個性あふれる地域づくり          ii 北海道独自の歴史・文化の継承やスポーツの振興          アイヌ文化や北海道・北東北の縄文遺跡群など本道独自の歴史・文化の保存・伝承、情報発信のほか、世界の舞台で活躍するトップアスリートの育成、札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会など国際大会やスポーツ合宿の誘致、地域におけるスポーツ活動や環境の充実などに取り組みます。</p>
<p><b>関連の深いSDGsのゴール</b></p> 

## II その他の御意見

### 御意見

- 主婦は、有識者会議で使われるような言葉を、「通訳」がないと聞き取れない。私はできるだけこうした会議に参加して、地元伝えることを常にしている。地元の女性たちの底上げが図れるし、家庭でキャリア教育をすることで、子どもたちが元気になって、自分の子どもをこの街で育てたいという気持ちになる。  
このような議論の中に学生、先生も参加出来るような仕組みがあれば良い。

### 道の取組

- 現在の北海道総合計画や、12月の策定を目指している北海道SDGs推進ビジョン等については、道民やステークホルダーが共有し、行動する指針となることから、わかりやすい計画となるように心がけて作成しているところ。

### 今後の方向性

- ◎ 幅広い道民が総合計画について理解を深めることができるよう、学生や一般社会人を対象とする、職員が出向いてわかりやすく説明する出前講座を開催しているほか、今後、策定するビジョンについても、策定後、一般道民やステークホルダーの皆様、市町村などを対象とする周知啓発を実施する。
- ◎ 現在、随時、開催している総合計画に係る出前講座では、一方的な座学の講義とならないように、受講者が積極的に参加し、理解できるように取り組んでいるほか、SDGsの啓発事業に関しても、受講者が積極的に議論に参加できるような工夫を行う考え。

### 関連の深いSDGsのゴール

